

力強く歩んで行かれることを



文学部長
まつお まさひと
松尾 正人

験は、皆さんの貴重な糧となつていきます。

維新の三傑といわれた木戸孝允や大久保利通、西郷隆盛も、皆さんと同じ年頃に得た経験がその後の人生の核となりました。江戸に出て学んだ学問や全国の志士との交流が、自分の出身藩を越えて日本全体や世界を視野に入れ、新しい時代を創ることにつながったのです。社会や政治の方向を考え、自分の生きかたを模索し、歴史や文学、哲学にまで探求を深めたことは、必ず社会に出てから役立つはずで。

中央大学の校歌のなかに、「いざ起て友よ時は今、新しき世のあさぼらけ」という一節があります。「胸に血潮の高鳴りや、湧く歌声も晴れやかに、自由の天地ぞ展げゆく」に続きます。卒業生を送る時には、いつもこの一節で胸を衝かれます。皆さんが新しい出会いと可能性に富んだ人生を、胸を張って力強く歩んで行かれることを祈念しております。

御卒業おめでとうございます。大学生生活を終えて社会に船出される心境はいかがでしょうか。大いなる期待とともに一抹の不安を胸に持たれているのかもしれない。皆さんの大学時代は、イラク戦争に象徴される殺戮とテロ、情報が瞬時に世界を駆け巡るグローバル化、地球規模で深刻化した環境問題などが顕著になりました。これまでにない不透明でむずかしい時代に突入したといつてよいでしょう。

しかし、皆さんは、大学生活でそのような不安を打ち消すだけの財産を獲得したはずで。皆さんは、マスコミを通じてさまざまな内外の問題を追いかけ、その解決策を考え、柔軟な頭脳で模索したでしょう。同時に、中央大学でそれぞれの専門分野を学び、学問の奥の深さも知ったはずで。そのような学生時代の経